

◀ 巻 頭 言 ▶

「昭和」、「平成」から「令和」の新しい時代へ

理 事 平 松 雅 裕

最近のテレビ番組で「昭和」と「令和」を比較している番組をよく観ます。若者に昭和の時代と今の令和の時代とどちらが良いかと問えば、昭和の時代は不便で生活が出来ないという意見が多くありました。テレビ番組から話題を始める事がまさに昭和の人間だと指摘を受けそうですが、ここでは、私が船舶機関士としてデビューした1980年代初めを「昭和」の時代として現在まで変化したと思われる3つの事柄を挙げて「令和」と比べてみます。

一つ目は、情報技術の進化を挙げます。昭和の時代にはワードプロセッサという今では過去の遺産となるような装置でさえ船ではまだ使用されておらず、文章は全て手書きで行い、唯一タイプライターで英文を紙に直接打つという時代でした。記録媒体としてのデジタルカメラもなく必要な場合には手書きでスケッチをしていました。これからの令和の新しい時代には、さらに高度化され海上ブロードバンド通信によるビッグデータの活用があたり前になり、機関士に必要な知識や能力も大きく変わって来ると予想しています。

昭和の二つ目は、当時、約3万8千名もの船員が外航船に所属し活躍していた外航日本人船員の数挙げます。その数は、昭和の終わり頃には1万名程度にまで減少し、その後の十年の間に約2千2百名程度にまで落ちこんだ後、令和に入っても船員数は減少したまま横這いを維持しているようです。私が入社した当時は、日本人は職員だけでなく部員の方々も多く乗船されており、船上の仕事以外に生活全般や上陸した時の遊び方に至るまで幅広く多くの事を教えてもらった事は懐かし

い思い出となっています。

近年の若手職員への教育には生活指導を含めて機関長自ら指導していかないとかなかなか育てる事が難しいと感じているのは、私だけではないかもしれません。また、子供の将

来成りたい職業の一つに外航船員の名前が挙がるようにもなってもらいたいものです。

最後に、環境問題を挙げます。昭和の時代には陸上社会において公害問題が議論され始め、公害対策をこれから計画的に実施しようとしている真只中にありましたが、海上では不要物の海洋投棄や排気ガスが地球環境に悪影響を及ぼす事などは船舶に乗船していた小生には当時、想像もしていませんでした。平成の終わり頃からカーボンニュートラルや化石燃料に代わる代替燃料の開発や研究が積極的に行われるようになり、令和の次の新しい時代を迎える頃には環境問題に苦労した事など過去の思い出となっているかもしれません。

我々海運業に携わる船舶機関士は、令和の新しい時代が、大きな技術の転換期となり、新しい技術をどんどん吸収していかなければならない時代になっています。これからの時代を生き抜いていく若手機関士の皆さんには、昭和の時代の過去の経験を踏み台にして新しい知識の向上を目指して欲しいと思います。その為には、日本船舶機関士協会がその手助けを行い、将来の目標を掲げ、それらを達成出来るように今後の活動を行っていかねばならないと考えています。

